

平成30年度第2回 大府市犯罪のないまちづくり推進会議 議事録

開催日時	平成31年2月18日(月)午後1時30分～午後3時00分
開催場所	大府市役所 5階 全員協議会室
出席委員	会長：岡村秀人：大府市長 委員：田中賢：日本大学教授、浅野博史：尾張県民事務所知多県民センター長、安達清悟：東海警察署生活安全課長、近藤勇人：東海警察署大府幹部交番所長、原田峰夫：大府市区長会代表、加古幹夫：大府市小中学校校長会代表、青山郁博：大府市老人クラブ連合会代表、鈴木菊代：大府少年補導委員代表、栗山宜子：東海・大府工場防犯協会大府支部代表、坂野好子：大府商工会議所代表、神谷まち子：大府市地域婦人団体連絡協議会代表、鈴置省悟：自主防犯ボランティア代表、斎藤文誉：大府市審議会等公募委員、山内健次：大府市副市長、宮島年夫：大府市教育長
欠席委員	工藤絵美：大府市小中学校PTA連絡協議会代表、高岡薫：大規模小売店代表 佐藤朝子：大府市審議会等公募委員
事務局	丸山青朗：市民協働部長、相木直人：危機管理課長、水野恵朗：危機管理課生活安全係長、宮崎翔：危機管理課生活安全係主事、岡田秀之：危機管理課地域安全専門員
傍聴人	なし
次第	1. 会長挨拶 2. 報告事項 (1) 大府市の犯罪発生状況について 東海警察署生活安全課長 安達 清悟 氏 (2) 平成30年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画進捗状況について 3. 協議事項 平成31年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画について 4. 意見交換 防犯対策での事例等について 日本大学教授 田中 賢 氏 5. その他

1. 会長挨拶

大変暖かくなってきた。2月末に長草のどぶろく祭りがある。これが終わると大府の春が来たと感じられる。本日は犯罪のないまちづくり推進会議ということでお集まりいただいたわけだが、交通死亡事故は依然として愛知県が全国ワースト1位であるが、侵入盗はワースト1位を返上したと聞いており、全般的に良い方向に進んでいるのではないかと思われる。これも地域や企業はじめ市民一人ひとりが防犯活動に取り組んでいただけた成果であり心より感謝申し上げます。

本日は平成30年度の事業進捗状況の報告と、平成31年度の事業計画を審議していただく。安心安全というものは、生活を続けていく中での最大の関心事であるので、今後とも皆様のお力添えをいただきたい。

2. 報告事項

(1) 大府市の犯罪発生状況について

東海警察署生活安全課長 安達 清悟 氏

大府市の平成30年の刑法犯認知件数は前年と比較し大幅に減少した。これは警察のみではなく、市民の皆様や事業所、そして大府市役所の協力があっての結果である。引き続き1件でも犯罪を減らしていきたいと考えている。平成31年に入ってからの大府市の刑法犯認知件数は60件であった。前年同時期よりプラス7件と若干増加し、その中でも大府市の懸案事項である侵入盗が多く発生し、1月だけで13件もの侵入盗を認知した。昨日も大府市で事務所荒しが4件連続発生したと報告を受けており、まだまだ油断ができない状況である。

また、今日は近頃大府市でも発生したキャッシュカードのすり替え詐欺について実演を交えて説明させていただきたい。

～資料を基に実演～

(質疑を挟まず次の説明へ)

(2) 平成30年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画進捗状況について 事務局による説明

(質疑応答へ)

→質疑なし

3. 協議事項

平成31年度大府市犯罪のないまちづくり事業計画について
事務局による説明

(質疑応答へ)

委員：防犯ブザーについて、連続してどれくらい鳴り続けるのか。防犯だけに限らず、災害があった際にも助けを呼ぶ手段で使用できるかもしれない。また、子どもに限らず高齢者に対するひったくりなどの防犯対策としても防犯ブザーは有効かと思われるがどうか。

事務局：基本的に電池が続く限りブザーが鳴り続ける仕様になっている。

会長：1個あたりの金額は。

事務局：児童に配布しているものは700円程度である。高齢者に対しても講話の際に防犯ブザーに限らず、補助錠なども含め防犯グッズの紹介はしている。ホームセンターなどで簡単に購入することができるので今後も機会を見つけて紹介していきたい。

委員：第3次大府市犯罪のないまちづくり基本計画の目標値に刑法犯認知件数を毎年減少させる。特に、住宅対象侵入盗を毎年65件以下とするとあるが、住宅対象侵入盗に対して特別な基準を設けた理由はなにか。

事務局：第3次基本計画の策定作業にあたっていた平成29年当初に住宅対象侵入盗が頻発し、大府市では特に住宅対象侵入盗の抑制が課題であると認識したため、

基本計画の目標に定めた。65件以下という基準は、過去に最も住宅対象侵入盗が低かった年を基準にし、最低でもその年以下にしようということで65件以下という基準を設けた。

委員：住宅対象侵入盗について、実際に犯人は検挙されているのか。

委員：検挙はしている。当然警察としては住宅対象侵入盗の被害を抑えるためには犯人を検挙するというのが1番の早道である。昨年東海市で発生した犯人を検挙したところ、発生件数が大きく下がったということは事実である。大府市で発生した侵入盗はいわゆるガラス割りの事案がほとんどであるが、もしかしたら窃盗団が入った可能性も考えられる。当然検挙に向けて捜査をしている。防犯の観点から述べると、防犯ガラスシートや補助錠など使用し、侵入までに時間をかけさせると約7割～8割が侵入を諦めるといわれている。今後も犯人の検挙と犯罪抑止のための啓発の両面での対策を続けていく。

会長：他に意見がなければこの計画案を平成31年度大府市犯罪のないまちづくり基本計画とする。以上で協議事項は終了する。

4. 意見交換

防犯対策での事例等について

日本大学教授 田中 賢 氏

東京都足立区の事例を紹介させていただく。足立区という地域は交通の便も良く、地価も比較的安いということで非常に生活のしやすい土地ではあるが、犯罪件数も多く、住みたくない街と言われてしまっていた。そこで、平成20年に割れ窓理論に基づいたビューティフルウィンドウズ運動という、清掃や花を植えたりして街を美しくする運動を展開した。また、パトロール活動なども実施し、都内の犯罪発生件数ワースト1位を返上した。しかし近年またワースト1位に返り咲いてしまった。理由としては、マンションの建設等で新しい住民が入り、地域とのコミュニケーションがとれていないことや、古い町並みの地域には高齢者のみが生活し、犯罪に遭いやすい状況が生まれていると考えられている。

そこで足立区が現在実施している対策は、足立区で発生した犯罪件数のうち4割程度を自転車盗が占める。その自転車盗被害の約6割が無施錠による被害ということで、足立区では自転車の施錠を義務化する条例を施行した。罰則規定はないが、自転車盗の被害は大幅に減少した。駐輪場で自転車を整理している方に話を伺うと、それまでは自転車の施錠を促しても効果が薄かったが、条例で義務化されたので施錠してくださいとお願いをすると、聞く耳をもってもらえるようになったとのことである。

もう一つ足立区の興味深い活動としては、防犯カメラを自販機に設置するというものである。民間の自動販売機運営会社が警視庁西新井署と協定を結んでいる。自販機の商品サンプルに小型カメラが内蔵されており24時間記録している。当然防犯カメラが内蔵されていることは表示している。大府市もドライブレコーダーを防犯カメラとして活用する協定を結んだということだが、近年防犯カメラの有効性というものはかなり認識されている。先日女子大生にアンケートを実施したところ、8割の学生が大学内に防犯カメラをもっと設置してほしいと思っているという結果が出た。ぜひ防犯カメラの在り方について、皆さんでディスカッションしていただきたい。

皆さんが取り組んでいる一つ一つの対策は、ただそれだけに収まるものではない。例えば防犯のための青パトではなく、交通安全の面でも、やはり青パトが走っている横を暴走しようとは思わない。青パトを運転する方も、安全運転に努めるようになったという話を聞く。また、徒歩パトロールを続けていく中で、子ども達と会話ができ、逆によく歩くよ

うになったので健康になったとの声も聞く。安全運転ができるからパトロールをしているのか、健康のためにパトロールをしているのか、どちらが先かはわからないが、何か一つのことをやったからそれで終わるわけではなく、様々なことが連鎖反応的に良い形で普及していく。先ほどの防犯ブザーの件で、災害時でも役立てるということは非常に良いことだと思われる。現在私達を実施している活動を何か別の方向で役立てることを考えると、より実施する意義が出てくるのではないかと考えられる。

委員：この会議に参加してみて、地域、警察、行政が様々な取組をしていることがわかり、非常に良いことだと感じる。しかし、その活動が市民に届いていないのはもったいないと感じる。特に若者世代にこういった活動を知ってもらえるような仕掛けができると良いと思う。

委員：数年前から自宅近くで交通立哨をしており、不審者らしき人を見かけた際は、学校に連絡した。結局何も問題はなかったが、何かあった際に助けを呼ぶ手段として、先ほど話が出た防犯ブザーを交通立哨の際に携帯することも良いと感じたので参考にさせていただく。

5. その他

特になし

事務局：これにて閉会させていただく。お帰りの際は交通事故や犯罪に遭わないようお気を付けください。

【 以上 】